

ともしび



「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い申し上げます。」日本中がこの挨拶で始まるお正月。普段のお休みとは違う、嬉しい行事ですね。

幼い頃の私は、お正月をとっても楽しみにしていたのですが、普段接していない親戚のおじさんと会うことに緊張していました。毎年、大変な緊張を乗り越え、お年玉を貰っていたのです。また、同年代のいとこと久しぶりに会い、トラップや鬼ごっこをして遊んだことなんかも、お正月の良い思い出の一つになっています。

そんな私も大人になり、お年玉をあげる側になりましたが、親戚の子どもと会って明けましておめでとうと挨拶できるのは嬉しいものです。お正月は一年の目標を確認する日ですが、私にとっては、人との繋がりを確認できる大切な日なのです。

〈本多 清寛〉
ほんだ しやうかん

「ブツダと私」



【今月の言葉】

好ましいことばのみを語れ。
そのことばは人々に^{よろこ}歡び迎
えられることばである。



私たちは「言葉」によって意思や気持ちを表現しています。言葉は私たちの日常生活で常に使用し、触れているもので、無くてはならない大切なものです。

今月は、その言葉についてお釈迦様が示された一節をご紹介します。

「好ましいことばのみを語れ。」

ここで示される「好ましい」とは自分の好きなことだけを語るというものではありません。自分中心に自分の好きなことだけを言っていたら、相手を傷つけてしまう事もありますし、そこから自分自身を苦しめる場合もあります。また相手にとって都合の良い言葉を並べても、そこで自分自身を極端に抑えてしまったり、自分を苦しめる原因になってしまいます。「人々に歡び迎えられることば」とは、自分も相手も害さないことが大切なのです。

昨年の東日本大震災のとき、私は友人のある「言葉」によって救われた事があります。私の地元は宮城県ですが、震災当日は東京にいました。地震があった

直後に地元の様子心配になり、すぐ連絡を取ろうとしたのですが、家族・友人・知人どこにも連絡がつかせませんでした。被災状況も良く分からなかったので、私は何とか地元の情報を集めようとインターネットとテレビに釘づけになっていました。

また震災直後から、親戚や友人に安否確認や励ましの連絡を多く頂きました。連絡を頂けるといふ事はありがたかったのですが、情報があまりなく不安定な状況の中での何十件という電話やメールの応対に、私自身が心身共に疲弊してしまったのです。

そんな状況の中、震災から三日目の事です。友人のK君から電話が来ました。K君は地震の直後には連絡が集中するだろうという事を予測して、落ち着いた頃に連絡をくれたのです。K君とは久々に話をしたのですが、その話の中で唐突に「落ち込んでなくても地元に戻ったら嘘でも落ち込んでいる振りしなきゃだめだよ」と言われました。もちろんK君は半ば冗談で言ったのですが、落ち込んでいるときに

そのような事を言われたらあまり良い印象を持たないでしょう。私も他の人から同じ事を言われたら、良い思いをしないと思います。

しかしこの時のK君の言葉は、私にとって「飲み迎えられることば」だったのです。それは、K君が後から連絡をくれた気遣いがあり、さらに気持ちを和ませようとして言ってくれた言葉だったので、それまで張っていた気持ちが緩み、不安な気持ちがふっと解消されたのです。

言葉は完璧なものではありません。同じ言葉であっても、話し手と受け手で受け取り方が違ってしまふ場合もあり、相手を思って言った言葉なのに相手を深く傷つけてしまう事もあります。時には慎重に言葉を選ばざるを得ない事もあるでしょう。

けれど、心から思いやりを持った言葉は、相手にもその気持ちが伝わるはず。 「人々に飲み迎えられることば」は、表面的な言葉ではなく、人と人との関係性の中で生まれる温かい言葉なのです。 みやげ三宅 だいてつ大哲

私の ふるさと



第八回 さっぽろ雪まつり



雪まつり大^{だい}雪^{せつ}像^{ぞう}

北海道で最も大規模なお祭りである「さっぽろ雪まつり」。大小様々な雪像や氷像が約三〇〇基も造られ、日本全国や海外から毎年二〇〇万人以上の観光客が訪れる一大イベントです。

大きなものでは高さ十五メートル、幅二十五メートル以上にもなります。雪まつりの開催期間は七日間という短い間ですが、この大雪像ひとつでも制作日数は約一か月にも及びます。一日中氷点下という厳しい寒さの中、自衛隊や全国から募ったボランティアなど延べ約三千人もの人々の作業によって完成するのです。そのようにしてやつと完成した雪像が、市民や観光客を楽しませています。

雪国に暮らすものにとって大量の雪は生活を害するやつかいなものです。それが多くの人々の手によって精巧な雪像へと形づくられたとき、やつかいものはただの雪の塊^{かたまり}ではなく、訪れた世界中の人々を感動させる芸術的な作品になるのです。〈日比^{ひび}博英^{はくえい}

〒105-8544 東京都 港区 芝 2-5-2 曹洞宗宗務庁内
曹洞宗総合研究センター 教化研修部門 一般教化課程
ともしび法話会

TEL 03-3454-6844 FAX 03-3454-7180

2013(平成 25)年 1月 1日発行 第 371号